

政務官の続投まだ「いいね」？

岸田政権は閣僚の「辞任ドミノ」で窮地に立っている。辞任(更迭)すべきは閣僚だけでない。岸田内閣の政務官や自民党幹部など、他にも何人もいるのではないか。

写真は東京新聞 11月3日「こちら特報部」。リードから一杉田水脈総務政務官が国会で「お答えを差し控える」を連発し、答弁拒否を繰り返している。誹謗中傷ツイートへの「いいね」問題や、過去のLGBTQへの差別発言など、政務官としての資質を問われているのに、「個人的なこと」などと説明を回避している。これでも続投は「いいね」なのか。



先月26日の衆院倫理選挙特別委員会で、「統一教会の信者の方にご支援、ご協力をいただくのは何の問題もない」と過去にツイートしていた杉田氏は、「今も問題ないと思っているのか」と問われた。答弁は「総務大臣政務官としての立場なので、個人的な投稿について見解の表明を差し控えたい」。

さらに性暴力被害を公表した伊藤詩織さんを「枕営業の失敗ですね」などと誹謗中傷するツイートに「いいね」を押し、東京高裁から名誉毀損と認定された件についても「係争中の案件なので詳細は控えたい」。SNS上の誹謗中傷防止を呼びかける「NoHeartNoSNS」(ハートがなければ、SNSじゃない!)という総務省の取り組みについては「存じ上げません」と答えた。

1日の参院内閣委でも、『「いいね」を推したのは事実か』との確認すら「控えさせていただく」。「セカンドレイプという加害の認識はないのか」と問われても「裁判に関する」と答えなかった。質問した立憲民主党の塩村文夏氏が、「笑っている場合じゃないですよ、政務官!」と注意する場面もあった。

待機児童問題に関連して「子どもを家庭から引き離し、保育所で洗脳教育する。(中略)コメンテルンは息を吹き返しつつある。夫婦別姓、ジェンダーフリーなどを広め、『家族』を崩壊させようと仕掛けてきた」と2016年にネット投稿した理由を聞かれると、「不用意な表現」と認めつつ、やはり「個人的な投稿なので差し控えたい」。塩村氏には結局、10回の「答弁控え」を連発した。

「しっかりと職責を全うして参りたい」と続投を表明する杉田氏。2日には「いいね」訴訟について最高裁に上告しており、現在の姿勢を貫くようだが、このままで済むのか。ある自民党参院議員は「身の処し方は本人か、官邸が判断すること。決して良いことではないが、政務官だと全体に影響するほどの立場かという感じもある。原則は、迷惑をかけていると思ったら自分から辞めることだ」と話す。

(2022年11月25日)